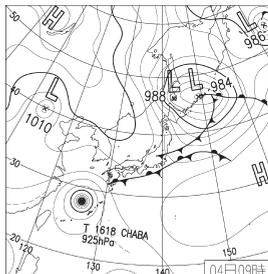


日々の天気図

— No. 177

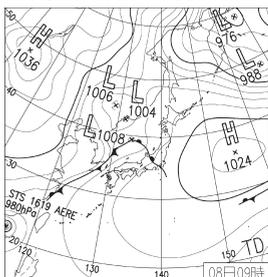
2016年10月

- 3～4日、台風第18号接近で沖縄本島地方に特別警報、北原(久米島空港)で最大瞬間風速59.7m/s、電柱倒壊、倉庫・住家損壊等被害。
- 4～5日、ハリケーン「マシュー」、ハイチを直撃、死者1000人超。
- 8日、阿蘇山36年ぶり爆発的噴火。
- 月平均気温、西日本以南過去最高。(気象庁予報部予報課)



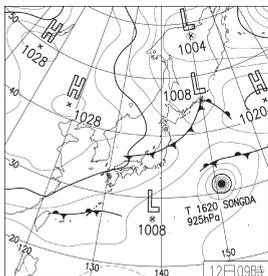
4日(火)台風 久米島付近を通過

猛烈な台風第18号接近で未明、沖縄県北原で最大瞬間風速59.7m/s、千島近海で低気圧発達し、北海道でも暴風、関東中心に気温上昇し真夏日、栃木県佐野で34.1℃など10月1位。



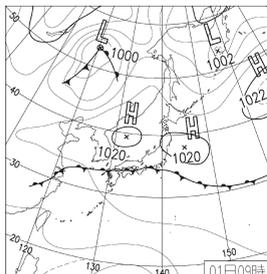
8日(土)阿蘇山、爆発的噴火

前線を伴った低気圧が日本海から北日本へ進み、西～北日本で大気の状態不安定。九州や東北を中心に局地的な大雨、長崎県松浦で62.5mm/1h、南鳥島近海で台風第20号発生。



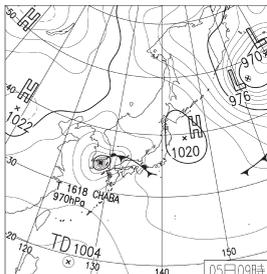
12日(水)北日本、寒前線通過

前線通過後は寒気入り北陸～北日本日本海側は雨や曇り、北日本の最高気温は11月並の所も、沖縄・奄美も前線の影響で雨や曇り、その他は概ね晴れ、沖縄県与那国島で68mm/1h。



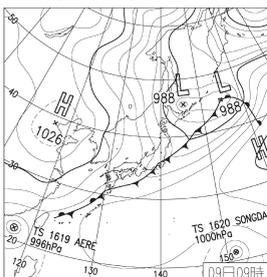
1日(土)沖縄～西日本は真夏日

西日本～東日本南岸の前線の活動は次第に弱まり、九州北部～東日本は午前中中心に雨、ほかは概ね晴れ。気温上がり115地点で真夏日、九州を中心に10月の1位の値を更新。



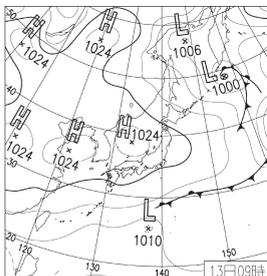
5日(水)台風第18号は温低に

台風第18号は東シナ海から対馬海峡を進み夜、能登沖で温帯低気圧に。九州・四国を中心に激しい雷雨。金沢では史上1位タイの最大瞬間風速43.4m/s、高知県で竜巻被害も。



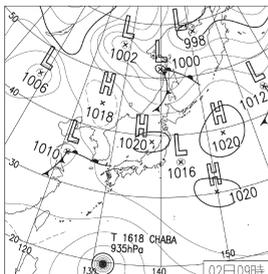
9日(日)前線通過

北海道付近を低気圧東進、九州～東北を前線南下、沖縄に停滞し各地で激しい雨、鹿児島県上中58mm/1h、最大瞬間風速は北海道えりも岬で29.3m/s、東京都神津島で25.2m/s。



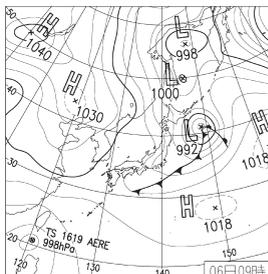
13日(木)全国的に気温上がらず

日本海の高気圧が東へ張り出す。北陸・東海・北日本太平洋側は概ね晴れたがその他は気圧の谷や湿った空気による曇りや雨、最高気温は11月並の所も、台風第20号は温帯低気圧に。



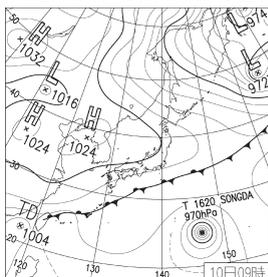
2日(日)高温傾向続く

西～東日本は高気圧に覆われ最低気温が平年差+6℃以上。最高気温は全国的に高く北海道で夏日も、西日本中心に185地点で真夏日、10月の1位更新多数、台風第18号は沖縄の南へ。



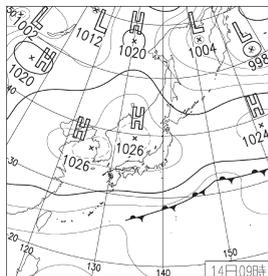
6日(木)北海道利尻山 初冠雪

暖かい空気が流れ込み、西～東日本は概ね晴れて関東中心に真夏日。最高気温は千葉県茂原34℃など10月1位も。北陸以北は曇りや雨、北海道には強い寒気入る。台風第19号発生。



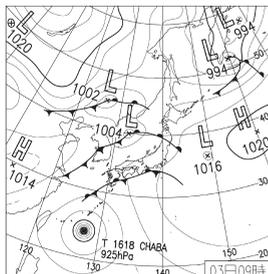
10日(月)岩木山・八甲田山初冠雪

日本海に高気圧が張り出し、北日本に寒気流入。前線は日本の南へ南下。沖縄・奄美は曇りや雨、西日本～東海は晴れ。関東や北陸～北日本は曇りや雨。台風第19号は熱帯低気圧に。



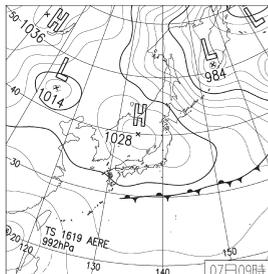
14日(金)本州に帯状高気圧

高気圧が次第に本州付近を覆う。沖縄～九州南部は前線の影響で曇りや雨。九州北部～北日本は概ね晴れたが、北日本の一部では気圧の谷の影響で雨の所も。台風第21号発生。



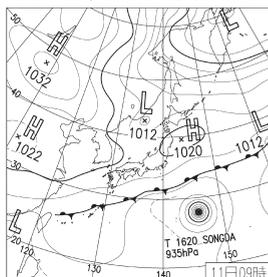
3日(月)沖縄に特別警報発表

台風第18号が猛烈な強さとなって接近し、沖縄県久米島では猛烈な風、湿った空気により九州～関東は太平洋側を中心に激しい雨。低気圧・前線の影響で北日本も所々で激しい雨。



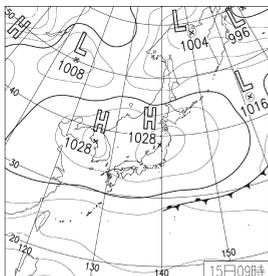
7日(金)稚内で初雪

沖縄は湿った空気で所々雨、高気圧に覆われ西～東日本は概ね晴れて気温平年並か高め、寒気が入った北日本では気温低く、稚内で平年より15日早く初雪、岩手山などで初冠雪。



11日(火)釧路で初霜

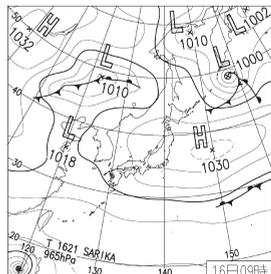
朝は北海道標茶の-3.4℃をはじめ北日本で11月並の冷え込みも、北日本は太平洋側中心に晴れたが午後は低気圧接近で雨、その他は前線や湿った空気の影響で一部を除き曇りや雨。



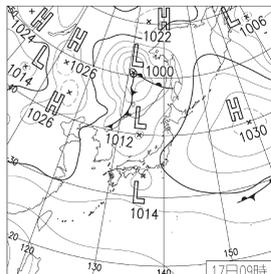
15日(土)台風第22号発生

沖縄～九州南部は湿った空気の影響で曇りや雨、帯状高気圧に覆われ九州北部～北日本は概ね晴れ。最低気温は各地11月並の冷え込み、札幌や帯広など北海道各地で初霜・初氷。

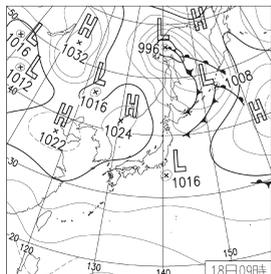




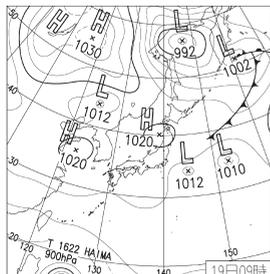
16日(日)西から天気下り坂
 高気圧の中心は日本の東だが西へ張り出し東～北日本は日中は概ね晴れ。気圧の谷接近で西日本は雨広がり夜は局地的に激しい雷雨。鹿児島県古仁屋で42 mm/1 h、宮城県で震度4。



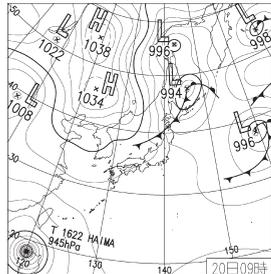
17日(月)気圧の谷通過
 低気圧が南北に連なり日本付近を通過。沖縄で晴れのぼは雨や曇り。徳島県日南佐で71.5 mm/1 hなど西日本で午前中非常に激しい雨や雷、和歌山県潮岬で最大瞬間風速36.5 m/s。



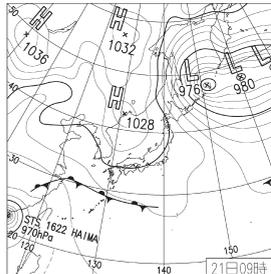
18日(火)晴れて気温上昇
 北陸や関東で雨の降った所もあるが日中は移動性高気圧に覆われほぼ全国的に晴れ。最高気温は9月並の所多く、東北を含め、全国の半数近い440地点で25℃以上。西日本で真夏日も。



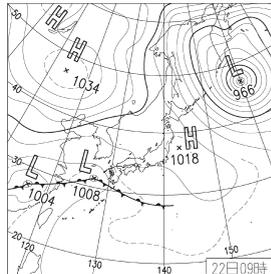
19日(水)引き続き気温上昇
 北日本中心に高気圧に覆われ概ね晴れ。沖縄～西日本や関東は湿った空気の影響で次第に曇りや雨。最低気温は関東以西で9月並と高く、日中夏日も。台風第21号は熱帯低気圧に。



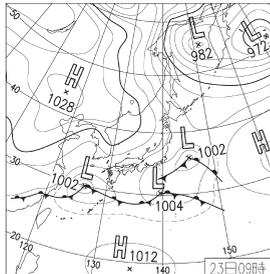
20日(木)札幌・旭川などで初雪
 平年より札幌で8日、釧路で21日早く、網走も。オホーツク海で低気圧発達。寒冷前線通過で北日本日本海側中心に激しい雨や雷。強い寒気入り北海道は次第に雪。千葉・茨城県で震度4。



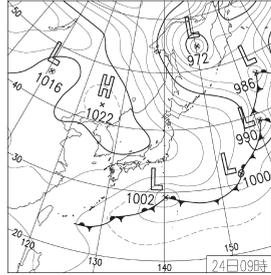
21日(金)鳥取県で震度6弱
 午後、震度4多発。北海道では気圧の傾き大きく、羅臼で最大瞬間風速41.9 m/s。札幌上空約1500 m朝9時の気温は11月下旬並。朱鞠内積雪13 cm。前線南側の沖縄は晴れ、九州は雨。



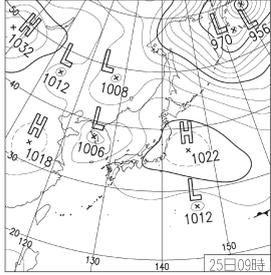
22日(土)九州南部で大雨
 低気圧・前線が九州付近を東進。九州南部と伊豆諸島で大雨。鹿児島県種子島で64 mm/1 h、最大瞬間風速33.3 m/s。北日本は曇りや雨で気温低め。盛岡で初霜。大分県で震度4。



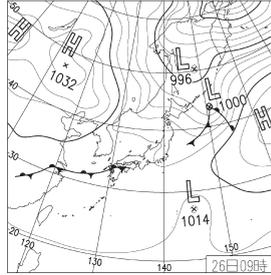
23日(日)北海道では積雪
 北日本に再び強い寒気流入。稚内上空約5000 m21時の気温-35.3℃は平年差-10℃超。夕張積雪7 cm。台風第22号から変わった低気圧が東シナ海から東進し九州南部中心に激しい雨。



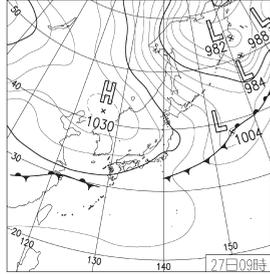
24日(月)移動性高気圧
 本州付近は広く高気圧に覆われ晴れ。北日本は気圧の傾きが急で風強く、日本海側中心に雪や雨。北海道えりも岬で最大瞬間風速30.1 m/s。室蘭、帯広で初霜。網走で初氷。



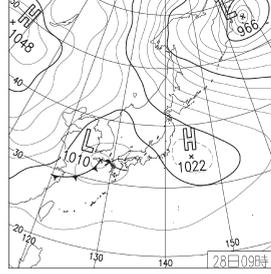
25日(火)気圧の谷接近
 高気圧は東へ去り低気圧が前線を伴って北日本へ東進。西日本は曇りや雨。東～北日本も晴から次第に曇りや雨。本州以北の最低気温は11～12月並。長野・網走で初霜。函館初氷。



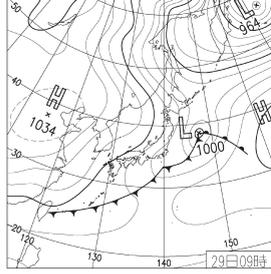
26日(水)富士山初冠雪
 甲府からの観測で、平年より26日遅く1956年と並ぶ最晩記録。日本海側は低気圧や前線の影響で曇りや雨。沖縄は晴れて真夏日。東～北日本の太平洋側は晴れ。東北以南で夏日。



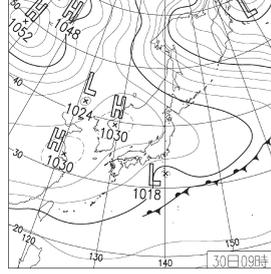
27日(木)北日本 冬型の気圧配置
 北海道日本海側は曇りや雨や雪。九州南部は前線影響し雨や曇り。その他は高気圧に覆われ晴れ。最低気温は九州中心に9月下旬～10月上旬並だが最高は北海道で11月中・下旬並。



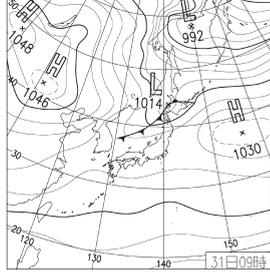
28日(金)関東は冷たい雨
 前線を伴った低気圧が西～東日本を進み、西～北日本の広範囲で雨。鹿児島県中甕で57.5 mm/1 h。沖縄は晴れ真夏日続く。最高気温は本州以北で低く関東は11月中旬～12月上旬並。



29日(土)近畿地方で木枯らし1号
 冬型の気圧配置となり各地で季節風強まる。日本海側では曇りや雨や雪。太平洋側では晴れ。北海道では宗谷岬で最大瞬間風速25.2 m/s。横濱岳で初冠雪。鳥取県で震度4。



30日(日)本州(青森)で初氷
 移動性高気圧が本州付近を覆う。北海道日本海側で雪。関東は気圧の谷の影響で曇りや雨。最高気温は関東以北で低く一部で12月並。青森で初霜・初氷。函館で初雪。稚内で初氷。

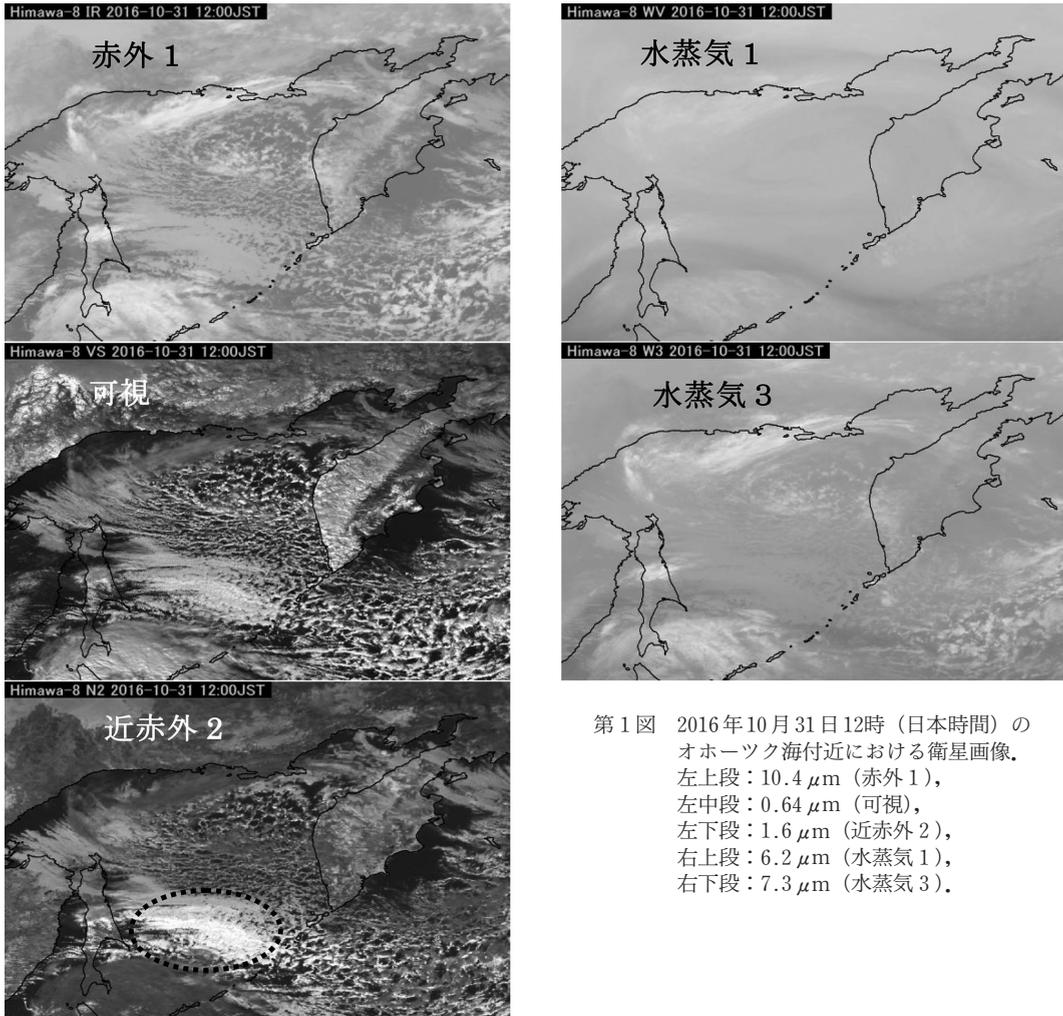


31日(月)山形・盛岡で初氷
 山形は初霜も。南西諸島除き全国的に冷え込み。北日本で最低気温が12月並、10月1位の所も。前線を伴った低気圧が北海道を通過。北海道音威子府で積雪25 cm。秋田市で竜巻被害。



今月のひまわり画像—2016年10月

ひまわり 8 号が観測した筋状の対流雲域



第1図 2016年10月31日12時（日本時間）のオホーツク海付近における衛星画像。
 左上段：10.4 μm （赤外1）、
 左中段：0.64 μm （可視）、
 左下段：1.6 μm （近赤外2）、
 右上段：6.2 μm （水蒸気1）、
 右下段：7.3 μm （水蒸気3）。

第1図は10月31日12時（日本時間）のオホーツク海付近における衛星画像である。10.4 μm （赤外1）及び0.64 μm （可視）では、オホーツク海に強い寒気移流時に明瞭となる筋状の対流雲域が確認できる。この筋状の対流雲域は、1.6 μm （近赤外2）では白い領域と灰～黒色の領域に見える。これは1.6 μm （近赤外2）では、水雲と氷雲で太陽光の反射エネルギーが異なり、反射が多い水雲の領域は白く、反射が少ない氷雲の領域は灰～黒色に見えるためである。なお第1図左下段の黒楕円中央付近の赤外輝度温度は -23°C 程度で、1.6 μm （近赤外2）で白く見えることから、

この付近の雲域の雲頂は過冷却の水雲である可能性が高い。

また、この筋状の対流雲域は、6.2 μm （水蒸気1：従前の水蒸気画像）ではほとんど確認できないが、7.3 μm （水蒸気3）では不明瞭ながら確認できる。これは、7.3 μm （水蒸気3）の波長帯では水蒸気による吸収率が6.2 μm （水蒸気1）より低い（透過率が高い）ため、冬季などで中層～上層が乾燥している場合は、水蒸気画像でも下層雲の情報が得られると言える。

（気象庁予報部予報課 西村修司）